



寒波が日本列島を覆い、親里でも小雪が舞うなか、寒さもいとわず帰り集う人々



立教181年
春季大祭

陽気ぐらしへ一手一つに

教祖が現身うつつみをかくされた明治20年陰暦正月二十六日に由来する、立教181年「春季大祭」が1月26日、奈良県天理市の天理教教会本部で執り行われた。各地で氷点下を記録する寒波に見舞われたこの日。国内はもとより、韓国、台湾、アメリカ、ブラジル、ベトナムなど17カ国・地域から約5万8千人が帰参した。おつとめの後、神殿講話に立たれた真柱様は「心のつなぎ」の大切さを強調し、世界一れつの陽気ぐらしへ向け、一手一つに一步一步、地に足の着いた歩みを積み重ねていくよう求められた。